

361  
N938t

統制社会学

国立国会図書館



\*0033351000\*

2

0033351-000

361-N938t

簡明統制社会学

野村佐一郎・著

川瀬日進堂

1943

AGA

この著作物は、著作権者不明のため、著作権  
第67条の規定に基づき、平成12年3月2  
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの

361

N938t

24 94

明簡  
統制社會學

醫學士  
文學士

野村佐一郎著

行發堂進日瀨川 查合社

書號	3062	日 立 業 作 所 是 有 工 場
類別	U-185	
種別	經 濟	
購入	18-9-24	
價格	子 108	

U-0155

醫學士野村佐一郎著

簡明  
統制社會學

(一名社會學教科書)



361.  
V938t



403465

寄贈 日立製作所  
亀有工場

### 例言

#### (一) 本書の目的

- (イ) 中等學生高等學校學生の參考書
- (ロ) 社會學の概念普及
- (ハ) 政治經濟社會問題の批判力涵養

#### (二) 本書の内容

- (イ) 學問の分類體系論
- (ロ) 社會形態機構の諸種學說の紹介
- (ハ) 社會人事學の建設(予の創案)
- (ニ) 記事の簡明化中正科學的なること
- (ホ) 統制精神の發揚

昭和十七年十月

滋賀縣犬上郡多賀町にて

著者誌す

一

參考書

文學博士 建部 遜 吾「社會學綱領」 金港堂發行（絶版）

吾が國に社會學者相當多數あり著書も十數種あるが、孰れも大部廣卷實用に適せず。恩師建部博士の著書は簡明直截、教科書に適し綜合、分類、表解等の體型システムの精神、古今獨歩、眞に社會學祖コントの精神を繼ぐものである。

社會科學（人文科學、精神科學）は元來經世の學である。簡明的、經典的、憲章的のものである。冗長、煩雜は廢すべきである。體型的統制的であるべきである。

東亞大戦争の勃發と經濟界の統制とは統制精神に富む先覺者建部先生を回顧せしむるものが多い。

著者誌す

目次

第一章 總論	一
第一節 社會學	一
第二節 學問の分類	三
第二章 社會形態論	九
第一節 社會	九
第二節 個人	一一
第三節 家族	一五
第四節 國家	二二
第五節 世界	二九
第三章 社會機構論	三三
第一節 政治	三三

第二節	經	濟	三
第三節	職	業	四
第四節	財	政	四
第五節	教	化	四
第四章	人	事	五
第一節	人	格	五
第二節	教	育	五
第三節	身	分	六
第四節	資	格	六
第五節	稱	號	六
第五章	結	論	七
第一節	平	和	七
第二節	政	治	七
第二節	政	治	八
政治の學術化			八
目次終			

# 簡明統制社會學

野村佐一郎著

## 第一章 總論

### 第一節 社會學

#### (一) 定義

社會學 (Sociology) は社會の形態及び機構の原理を研究するもので廣義の哲學に屬する。支那では群學と稱する。

社會形態學 (Social Morphology) は社會の種類形態を研究するもので家族、民族、國家、世界等は社會の形態である。

社會機構學 (Social Dynamics) とは人類が社會生活を営むに必要な機構即ち政治、經濟、職業、財政等を研究するものである。

社會學の研究方法は現代科學の研究法に倣ひ頗る科學的と稱せられて居るが、此の科學的に二種ある。即ち事實を客觀的に記載する記載學的方法 (例へば地理、歴史、博物の如き) と事實の閃に含む内在的原理を研究する窮理學的方法 (例へば哲學、物理、化學の如きとの二種である。而して社會學は其二種の研究法を併用する。而して其範圍は次の如き傾向に分れる。

- 記載的社會學 (Sociology) 主として社會形態の研究
- 原理的社會學 (Societics) 主として社會機構の研究

斯の如き二種の性質を有する爲め社會學は或は歴史科に屬し、或は哲學科に屬する。然し其大勢は社會原理學にあるから哲學科に屬する。

### (二) 社會學の發達

近世科學の發達の影響を受け古代、中世に哲學に包含されたるものが科學的傾向を帯び心理學、社會學、倫理學等が精神科學、社會科學として獨立した。

社會學は十九世紀末フランスの哲學者コント (August Comte) が創めて唱へ、倫理學から獨立したものである。

### 第二節 學問の分類

古代から哲學者は皆學問の分類を論ずるがコントは特に是を論じたので社會學に於ては一般に學問分類論が講ぜらる。

#### (一) コントの分類

西洋ではアリストテレスやベーコンが學問の分類を論じたが、近世自然科學の發達につれ學問の範圍廣くなり分類系統の必要生じ、十九世紀に於てコントは進化論を應用し次の如く分類した。

宇宙進化的學問分類

- 一、數量形狀 數學幾何學
- 二、勢力 物理學
- 三、物質 化學



- 四、生命學
- 五、社會學

分類の根據。宇宙の根本は數量である、數量から形狀が生ずる。數量、形狀の微妙なる組合せにより勢力が生じ、勢力の具體化が物質となり、物質進歩して生命を生ずる。生命の集團が社會となる。社會現象は宇宙進化の最後の現象である。

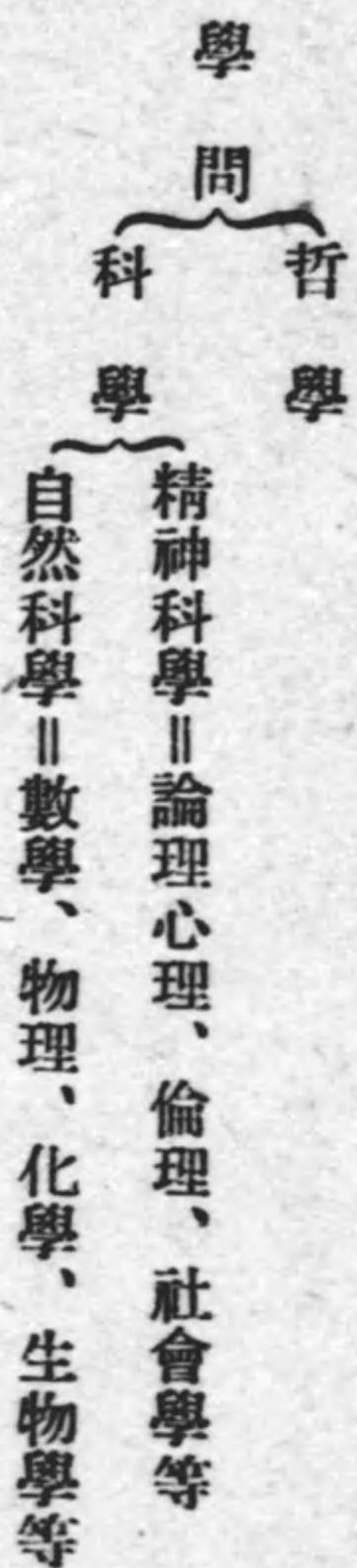
コントは斯の如く考へ、科學以外に哲學の存在を否定した。彼の説を實證哲學 (Positivism) と稱するのである。

コントの分類の批判。コントの分類は當時の學界を風靡し進化論と共に行はれたが二十世紀に入り衰へた。其の理由は數量形狀から勢力は生ぜぬ。勢力進化して物質となることは無い。物質から生命の生ずることも疑はしい。生命現象と社會現象とは全く性質の異なるものである。

數量形狀は物質の形式であり、勢力と物質は對立せる物性であり數量、勢力、物質、生命、社會等は宇宙の各部分即ち方面 (Dimension) に過ぎぬものであると云ふ傾向が學界に現はれた。

(二) ヴントの分類

二十世紀の初頭にドイツの哲學者ヴント (Wilhelm Wundt) は學問を左の如く分類した。



分類の根據。彼は哲學と科學との對立的存在を主張したのである。哲學無き科學無く、科學無き哲學は無いと

この分類も相當に重要されて居る。

(三) デイルタイの分類

現代ドイツ哲學の大家デイルタイ (Wilhelm Dilthey) は次の如く分類する。



分類の根據

從來哲學と精神科學 (心理、倫理、論理、社會學等) とは別のものとされて居たが、是は不可分離

のものである、歴史學的的主觀的のものである、歴史は主觀の流れである。哲學も精神科學も皆主觀的歴史的である。社會學、心理學の如きも歴史的學問であり「客觀的に見ゆる主觀學」であると現在の傾向は文科學と理科學との對立的分類が廣く用ゐられ、哲學と科學の對立や精神科學や社會科學の名稱が餘り用ゐられぬ様になつた。寧ろ文科學とか人文學 (Human Science) の名が廣く用ゐられる。

(四) 學問の發達

人類が地上に發生して以來二十數萬年を経た。人類に言語の發生が社會制度の元となり、社會制度の完成には哲學、宗教、文學、歴史等の言語文明が先づ發達完成した (古代中世) 社會制度の完成に伴ひ物質文明、科學文明が發達した。科學文明の根本は數學である。人類が立歩を始めてから前足は手と稱し、先づ指を以て數を數へ、手を以て物品の採取、捕獲、製造に用ゐたのである。是が科學文明と稱せらるゝ。近世は科學文明の時代である (近世)

言語文明も科學文明も共に實用文明であり、手段的であるが、人生を美化する美の精神が人類特有で、美は律的現象に伴ふのであるから律的文明が人生の最高とし是を藝能と稱する。かくて人類

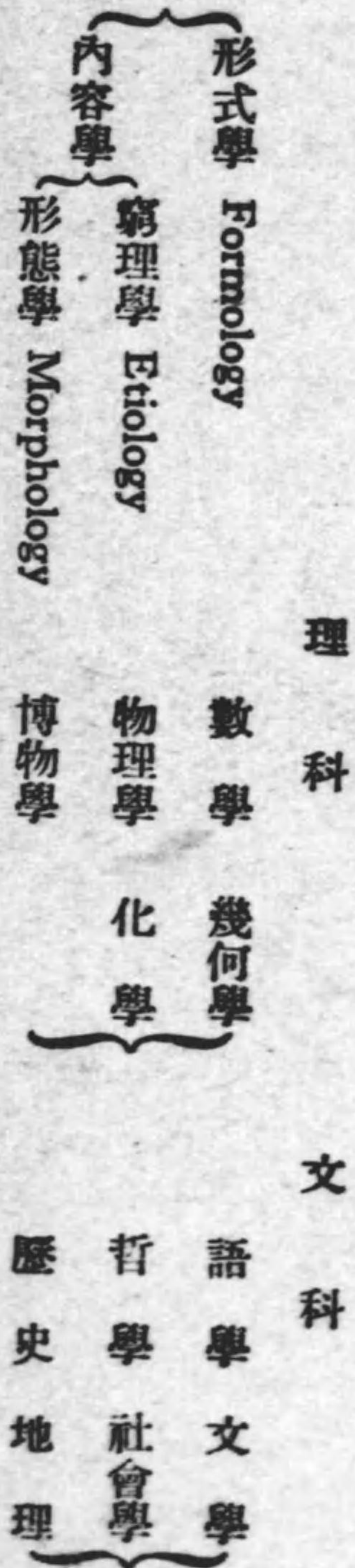
の文明は次の如く三種に分れる。

種類	内容	特色	時代
文科文明	語學、文學、哲學、歴史、法律、經濟 (考案)		過 來
理科文明	數學、理科學、農學、工學、醫學 (實驗)		現 代
藝能文明	美術、音樂、體操、演藝 (訓練)		未 來

二十世紀は科學時代であり、二十一世紀は藝能時代であろう。世上往々文學を文藝と稱し藝術に入るゝ人あるも文學、哲學、史學は文科學に屬し文藝、哲學、史藝と稱すべきで無い。

(五) 社會學の位置

學問全體より見て社會學の位置は次の如く考へらる。



予は理科學と哲學の對立を次の如く考へる

物理學（力學、音響學、熱學、エネルギー電氣學）勢力  
 化學（無機化學、有機化學）物質  
 哲學（論理學、心理學、哲學）  
 社會學（社會學、倫理學、政治學）

註 古代の學問 哲學、史學、文學、科學（科學が四分の一）

現代の學問 理學、化學、醫學、文學（文學が四分の一）

力學、光學、音響學、熱學等が物理學の一章一節である如く論理學、心理學、認識論等が哲學教科書の一章一節であり、而も力學、光學等に比し遙かに内容の少き章節である。恰も文字學、發音學、文法學、修辭學等が言語學の一章一節であり、決して獨立科目としての内容と價值を有せぬのと同じである。

**文科學の整理** 科學時代の文科學は内容と價值の大小により簡約合同して科學化することは大に必要である。理科の物理に對して文科の哲學があり、理科の化學に對し文科の社會學が對立する。

## 第二章 社會形態論

### 第一節 社會

#### （一）社會の種類

社會とは共同生活團體である。而して個人は單位である。社會には種類が多い。家族も社會であり、國家も社會である。朋友も社會であり、市町村も社會である。

社會の種類を次の如く分つことが出来る。

（イ） 先天的社會 家族、國家

（ロ） 後天的社會 同郷、同僚、會社、市町村、人類

家族、國家は廣義の法人であるが、現在としては最も完備せる先天的自然的社會である。決して人工的で無い。

是に反し人類、朋友、同宗教徒等は自然的社會ではあるが、未だ規約成立せず漠然たる社會であ

る。人類の如きは將來國家に代りて最大完全社會たるべき性質を有するも、現在としては單に國際社會として通商貿易の範圍に止まつて居る。府縣、市町村、會社等の如きは法律的に規定さるゝ法人であつて國家の支配に屬し根本的なる社會では無い。

### (二) 社會の發生

地球に人類が發生したのは地質學化石學上の研究によれば約二十萬年前である。猿猴類の優秀なるものが進化したのであらう。

現代の人類の發生は約一萬年前である。其より以前十九萬年間に二、三種類の人類が興亡した。現在の人類は幾多の人類に分れて居るが根本は一であらう。皮膚の色は人類の年代を示すものと思はる黒、褐、黄、白の順序に古らしい。然し古代からの雜婚で全く純粹の人類は存在せぬ。

人類の發生、殊に現在人類は發生時代から群居生活、言語使用、共同生活等をなし社會を作つた。

### (三) 人類の社會性

人類は肉食動物でも無く、草食動物でも無く、果食動物であるが、猿猴類の如く純粹果食で無く肉食もする。

人類は果食動物、草食動物の如く群居生活をなし共同生活、平和生活的本性を有して居る。肉食専門動物の如く爪牙發達せず、又夜間には視力が無い。

人類と他の動物と其の社會性の異なる點は

動物社會——協同生活のみ分業生活殆んど無し

人類社會——協同生活並に分業生活

にあるのである。

分業生活の根本は人類が立歩を始め、前足即ち兩手を歩行に用ゐず是を以て他物の捕獲、採取に用ゐ、進んで器物製造を始めたことが原因である。器物製造には資材が必要であり、資材には種類多く、製造には熟練が必要となり遂に分業となつたのである。又言語、文字の發達は智能の差を生じ茲に分業が確立したのである。

## 第二節 個人及び個性

個人は社會の單位である。而して個人には個性がある。動物にも個性はあるが分業が無きたため殆

んど個性の發達なく、殆んど皆同一の個性である。然るに人類は分業が生じてから著しく個性が發達した。

人類は六、七歳頃迄は個性が少く十二、三歳頃から個性が著しく發達し、各人皆異なつた個性を有するのである。

(一) 古代の個性觀(心理性)

古代に於て人類の個性は其生理的原因により生ずるとし

神經質……………智 的

多血質……………感情的

膽汁質……………意志的

粘液質……………遲鈍的

の四種に分けたが是は想像に止まり生理學的に證明出來ぬのである。然し人類の心理學的性質に智的、情的、意的の三種あることは是を皆認めて居る。生理學と連絡せんとするのは困難である。

(二) 職能的個性

人類に分業が始つて數千年間に人類の個性は著しく職能性を帯びて來たのである。予は是を次の如く分たんとする

實行性(意)……………實業家、軍人等

思考性(智)……………哲學者、文學者、宗教家等 (智 性)

實驗性(智)……………科學者、技術家 (發明性)

演技性(情操)……………美術家、音樂家、スポーツマン (發表性)

是は兒童教育上大いに參考にすべきものである。又自己を反省して職業や、専門學術を選定するに必要である。(文學性は美術、音樂の如き演奏性にあらず、寧ろ思想的智に屬す)

(三) 社會道德的個性

個人の發展が職能的に行はるゝと共に他面に於て各人の社會性、道德性によることが多いので、職能性の外に社會性が存在するのである。而してドイツ人ジムメル (Zimmern) は次の如く分類した。

甲、正社交性 (Social)

積極社交性

- 乙、不社交性 (Non-social)      消極社交性 (孤立性、沈黙性)
- 丙、偽社交性 (Pseud-social)      依頼性、策略性
- 丁、反社交性 (Anti-social)      反抗性

この内に於て正社交性とは立憲的公明正大に社交性を有し調和性、抱擁性に富み求徳、求望性の人である。正社交性は社會の大部を占む、是にも程度の差がある。

不社交性は孤立性多く又美言佳辭を嫌ひ不言實行的で沈黙的である。偽社交性は一見正社交性に似るも内心依頼心多く獨立心少く阿諛策略的である。其内心を看破さるゝ時は信用を失ふ。

反社交性は自尊心に過ぎ抱擁力少く自己に成案無くして他人の案に反對し右と云へば左と云ひ萬事反抗的人である。不社交性、偽社交性、反社交性は社會の一部である。

(四) 進化論的個性

人類は生物であり、動物であり、人類に進化し、更に進んで神に迄進化するものとすれば、人類の個性にも是等數階段の特性が含まるべく、其特性の濃淡により次の如く分つ。

- イ、植物性      固着性、生活性

- ロ、動物性      征服性、經濟性

- ハ、人間性      地位性、名譽性、秩序性

- ニ、神靈性      宗教性、感謝性、平等性

人類の特性は地位性、名譽性、秩序性等であり是が社會の上層を占め、國家をなし、政治を行ふ王侯あり、郷太夫あり、治安維持が整ふのである。

然し更に進んで神靈性は宇宙を達觀し宇宙の最高を神とし、王侯も神に及ばず、神性の具備を以て人類最高の徳として人間性、動物性の地位慾、征服慾の鋭鋒を挫かんとするのである。孔子、釋迦、基督等はこの神靈性の高き人である。

以上數種の個性の外に尙個性の分類法もあるべく名稱もあるべきも系統的分類は右の數種に止まる。又社會尊情により種々に變化を來すこともある。

第三節 家族

(一) 家族制度の發達

哺乳動物や鳥類に於ては夫婦關係、親子關係も存在し家族的愛情も存在するが、動物間には雌雄の交尾期間も限定され且つ養育期間も短くして直ちに成長するから家族關係が濃厚で無い。家族問題には人類の如く生命長く個性差異ある場合にのみ特別の發達を來すのである。

註 野生の鳥類は概ね一夫一婦であるが、是を飼育すると亂婚となる傾向がある。

(イ) 原始母系時代

人類は太古原始時代に於ては他の哺乳動物と同じく男女亂婚であつて父系は達せず、母は子を養ひて母系が發達した。アフリカの黒人間には十九世紀まで母系制度の種族もあつた。

哺乳動物は全く亂婚であるが、母系時代の人類は個性が發達して居るから男女の間にも愛憎好惡の念あり、漠然たる亂婚は無く一夫一婦なりしものである。唯主權が女子にあり、女子が男子を選定したものである。

母系制度と亂婚制度とは異なる所があるのである。世上往々是を混同する傾向がある。

(ロ) 父系の確立

人類に分業が發達してから財産が生じ、所有權が發生し、相続が始まり、男子は主として財産の

獲得及び製造に従事し、女子は家庭に於て子女の養育に携はつたので所有權が男子を主とする様になり、男尊女卑の風習が生じ一夫一婦の關係が濃厚となり、母系制度は遂に父系制度に移つた。

父系が確立して後は女子は財産を繼がす他の男子に嫁する様になり、男子が女子を選択する様になつた。

生理學上に於ても男子を種とし女子を畑とする解釋が人類を司配し、父系制度の確立と共に女子の貞操は嚴重に要求せられた。

父系制度の強化するにつれ女子は賣買せられ、或は掠奪せられ、結婚にも賣買結婚、掠奪結婚、政策結婚等が行はれ純眞選擇結婚等は比較的少くなつた。

(二) 氏族制度

家族は親子夫婦の小團體であるが、家族の同血統のもの集合して氏族をなし、氏族の長は同族を指揮することがあつた、是を氏族制度 (Clan System, Clanism) と稱する。古代の源氏、平家、藤原氏時代は氏族制度の全盛であつた。

註 近年まで岐阜縣飛騨白川村に大家族制度があつた、是は氏族制度に類以する。

吾が日本帝國は萬世一系の世襲君主國で皇室の分家を皇族とし、皇族の分家を貴族とし、貴族亦血統を尊び宗家、分家あり、源平藤橘皆皇室より出で、政治も亦血統を重んじ一大氏族國家であつた。而して近世の封建政治は民間にも職業の世襲 血統尊重となり民族的風習が生じた。

明治維新により封建政治倒れ、人材主義が政治の中心となり、氏族は存在するも、氏族政治は衰へた。

支那及び西洋諸國は古來王朝の變遷多く氏族制度發達せず、然るにエチオピヤは開國以來四千年王統連綿として一回も革命變遷無く、氏族政治行はれ古來政治の實權を握れるものは皆王族、或は其一門、分家であつて大宗家たる王統は一貫連綿であると云ふ。

東洋、西洋を通じ民間の實業界には氏族を主として同族集りて事業を經營し、氏族主義頗る行はれて居るが器械の發達、資本の擴大、技術資格者の必要は大合同合併の必要を生じ、一族専有は極めて少くなり、其結果資本の公開募集となり、人材の公募となり、實業界に於ける氏族主義も巨大資本家以外には成立困難となつて居る。

### (三) 家族制度の將來

現在の家族制度には特長もあり缺點もある、缺點を改良して家族制度の保存を謀らんとするを家族制度維持論と云ひ、家族制度は其根本が不合理である、廢止の外無しとするを廢止論と云ふ。今其の兩説の主眼とする所を述べて見よう。

#### (イ) 家族廢止論

家族制度殊に現在の父系制度の存続には左の如き缺點がある

(1) 政治經濟上 父系家族制度は地位、財産、職業の世襲主義に陥り易く同族拔擢、血族尊重となり人材主義の發達に害惡を及ぼす。

(2) 優生學上 女子に男子選定權を與へざれば人種改良、肉體改良が出来ぬ。現在の如き一夫一婦制度は優生學的制度に反するのである。

(3) 動物學上 人類は獸類より進化し、鳥類より進化したもので無い、獸類は一妻多夫であり、鳥類は一夫一婦的である。獸類より進化せる人類に貞操嚴守を命ずるも事實行はれぬ。是等の缺點は家族制度の改良によりて除くこと出来ぬ、寧ろ家族制度を廢止し、貞操を開放し、

幼児は養育院に、老人は養老院に收容すべきであると、



(口) 家族制度存続論

110

家族制度の缺點は改良して家族制度は永久に存続する、家族制度は科學的に合理的制度である。

(1) 政治經濟上 人類の人口が男女同數なることは一夫一婦に最も適する。動物も男女同數であるが個性の差が少いため亂婚にても自然的に配合が公平に行はるゝが、人類は個性の差異多く、好惡愛憎の念強く、亂婚を許せば配合が不公平となり美女爭奪等の事件が発生する。

(2) 地位職業上 庶民階級に於ては家族制度により職業の世襲は却て能率増進する。貴族、高官の地位、爵位等の世襲が害あらば一代制とすればよい。現在でも學位、位階は世襲で無い。

(3) 優生學上 父系制度よりも母系制度が優生學上、特長が多い場合には母系とすること、但し母系制度は往々亂婚に陥り、亂婚は往々妊娠率を少くし人口を減少する。又亂婚は知らず知らず血族結婚に陥り不具者を生むことがある。

(4) 生理學上 男子の精虫、女子の卵子は生理學上、男子を種子として重んじ女子を如と見るのである。是の説を覆すことは困難である、卵子を卵虫とし現在の精虫を精肥又は養素とする學説は未だ成立して居らぬ。

(5) 動物學上 人類が獸類より進化し貞操嚴守が困難ならば男子にも女子にも平等に制限解放(例へば配遇者疾患、長期不在の場合又は一定日のみ貞操解放日を設くる等)しても尙且つ家族制度を存続するがよい。

現在世界各國の學者の大勢は家族制度の廢止にあらずして現在制度の改正によりて家族制度を益々美化し、其特長を發揮せんとするのである。而して其要點は政治經濟上、血族拔擢の改正、男尊女卑の改正、女子貞操の緩和(姦通罪の廢止)等の研究に集中し、小遺産の承認、姓氏保存等は却て家族制度の特長であると見られて居る。姓名の番號説は賛成が少い。母系制度と父系制度の優劣も大に研究せられて居る。

第四節 國家

(1) 國家の起原發達

人類は其發生年代の區々なると地方分布久しき關係上、有史以前より數百種の種族に分れ言語を異にして居た。

太古各種族には酋長の如きものがあり同一種族、同一語を以て統一の範圍として國を建て、居たのである。

暖國に於ては食物は、自然的に豊富で唯其運搬と配分を主とした爲め、太古より市府國家が形成され従つて商工業學術が興隆した。

是に反し寒國に於ては、食物の採取に全力を注ぎ農業、漁業、狩獵が主なる職業であり、領土を主とする農業國家が形成された。

而して酋長國王の野心と鑛物使用時代に入りては、鑛物資材の獲得の爲め各國家間に戦争が始まり少種族、弱種族は滅亡し漸次地球は、僅に數十民族によりて支配され、弱小種族は山間等に殘存するに至つた。

人類の文化進み、文字作成され、學術興隆し、宗教が興るに及び各國家間に交通貿易生じ、國境劃定、國防等生じて國家の形成が大に完成した。而して國家は上古に比し大きくなつた。微小種族(アイヌ、臺灣生蕃等の如き)は國家をなさず、大國家に抱擁せらるゝに至つた。

## (二) 國家の要素

國家形成の要素は絶對的要素と相對的要素とがある。

絶對的要素——土地、人民、主權者

相對的要素——言語、民族、宗教、文字

(イ) 土地、人民 人類は地上動物たる以上、國家の要素は土地、人民にあることは明である。土地のみありて人民無ければ國で無い。人民のみありて土地無ければ國と云ひ難い。

將來或は空中國家、水上國家が現出するやも計り難いが未だ現出して居ない。又職業國家(例へば衛生國內科縣、鐵道國貨物縣等)とか思想國家(例へば資本主義團體、共產主義團體、佛教團體等)とかの出現ありとするも領土の伴はされば國家と云ひ難い。

(ロ) 主權者 人類は群棲動物であるが、單に群棲のみでは國家で無い、統一主權者が必要である。主權者が君主なると、人民なると、大統領であると關係が無い。

(ハ) 人種、言語 は上古に於ては唯一の國家要素であつたが、現在では絶對で無い。布哇<sup>ブワイ</sup>王國(二十世紀の始め米國に合併さる)の如きは布哇人五萬、米國人、日本人各十萬内外であつた。南阿聯邦は里人八百萬、英人、蘭人各々百萬で英語、オランダ語を國語とする。

征服國、屬國獨立の場合や南米の如き殖民國家には斯の如く言語、人種の綜合複雑なるものがあるが、其他の國家は大體一國、一言語、一民族を理想とする。

(二) 宗教及思想 是も國家の要素である。國內の宗教や思想が幾種類もあることは統一を妨げる。職業の種類は相俟つて利益を増進するが、宗教や政治思想は互に相容れぬため内亂の元となる。然し是には程度の差もあり限界正確で無いから國家の絶對要素で無い。況んや融和の方法が發達するのである。

### (三) 國家の本質

國家は絶對的存在か、手段的存在か、是によりて國家の權能にも關係することが多いのである。以下是を略述しよう。

#### (1) 國家絶對論(國家有機體説)

人類は群棲動物であり社會動物である。政治統一を本能とする政治動物である。而して其の政治本能の最高實現體が國家である。吾人は國家を雜れて存在出來ぬ、國家の命令は絶對である。國家の權利權力は無限である。個人は國家の細胞である。

國家に完全、不完全の別はあつても國家は絶對存在で、恰も有機體の如きものである。國家の命令は大腦の命令に等しい。

有機體にも完全、不完全がある。人體の如きも眞に完全で無い。況んや不具廢疾の如き場合、精神病者の如きは不完全であるが有機體である點と絶對的たる點に於ては誤りは無い。

人類の如きは理想の國家であるが、現在としては人類主義は漠然として意味をなさぬ。具體的理想で無い。

國家有機體説は獨裁政治、專制政治を理想とし國民を細胞と見る又は機關と見る。徴兵、納税等に制限も無く君主、獨裁者の命令は絶對で批判を許さぬ。

#### (2) 國家手段論(國家法人説)

國家は個人の集合體である。市町村や府縣の大なるものである。決して個人の化合物、有機體で無い。

國家は會社や市町村と同じく法人であり、個人の利益増進の爲め的手段である。個人が目的で國家は手段である。國家が目的で個人が手段と見るは誤りである。

國家は法人であるから個人の意見の總意により、合併も解散も出来るのである。有機體ならば合併、解散は出来ぬ。

國家の權能は極めて消極的で妄りに徵稅、兵役等を命令出来ぬ。先づ個人を主としたる議會の協賛を要する。

國家法人説は共和主義、立憲主義である。非獨裁主義である。上意下達で無く民意上通である。國家法人説に於ては言論は徹底的に自由である。

以上兩説を世界の現状により見るにドイツ、イタリー、ロシア等は獨裁國であり、全體主義であり、國家絶對論である。是に反し英國、米國等は國家法人説である。

古代ギリシヤのスパルタは國家主義、專制主義、軍國主義でありアテネは民主主義、自由主義、個人主義であつた。

吾が日本は明治以來、立憲君主制であつたが、現在はドイツ、イタリーと共に全體主義的傾向が多し。

(四) 國體論

國體とは主權存在の形式を云ふのである。古今東西の歴史に現はれたる國體の種類は左の如きものがある。

君主國 (君主一名、稀に正副二主、主として男帝王)

世襲君主國 (君主國の大部分)

一代君主國

禪讓君主 (支那太古の堯舜時代)

選舉君主 (中世ドイツ帝國)

宗教教主國 (相續は指名又は選舉)

モハメット教主國 (カッフ)      ローマ法王國 (ポフ)

民主國 (大統領又は總統)

立憲共和國 (共和國の大部分)

獨裁共和國 (現在のドイツ、ロシア等)

現在の英國は君主國であるが實質上民主國である。是に反しドイツやロシアは形式上民主國であ

るが、實質上、獨裁君主國である。

國體の根據 各國の國體にはそれ／＼根據がある。

世襲君主國……………開國始祖崇拜、血統尊重

一代君主國……………偉人崇拜

共和國……………民意尊重

宗教教主國……………神意尊重

立憲君主國……………血統尊重、民意尊重

支那及び西洋諸國は古來屢々國體の變遷があつた。吾が日本は開國以來萬世一系の君主國である。

君主國は主として歴史的、傳統的、信念的であるが科學的根據と普偏性に乏しき場合あり、共和國は科學的理論と普偏性に富む如きも國家に特色無く人類主義に傾く場合が多い。

社會學者の任務は歴史的國體に科學的根據を與へ、理論的國體に歴史的信念を與へ、以て國體の不變永續を謀るべきである。

### 第五節 世界（人類）

#### （一）世界、人類

世界人類は最高の社會である。然し現在では人類全部が未だ通商もせず、全く通信の方法すら無き國民もあり、種族もある。是等の人類とは社會を共にして居らぬ。人類には相違無きも全く通信、交通、理解の道が開けて居らぬのである。例へば濠洲内部未測量地の土人、パプア島の土人の如き、或は西藏西北部の土人の如きは全く日本とは通信、交通の方法が無い。恰も火星、本星の人類の如きものである。従つて人類と云ふものは地球内と地球外とに關せず、未だ完全に社會を形成して居らぬものがある。

然し世界人類の九割以上は、既に開明國家を形成し、直接、間接に交通、貿易をなし國際關係（International）をなして居る。

國際關係は國家と國家との關係を主とし、個人關係のものも世界的のものは國際的と稱することが多い。

國際的世界の單位は國家であるが過去、現在の情勢より見るに國家の合併、滅亡、分裂、新生等屢々行はれ國家安定を缺く。世界の將來は統一か、永續對立か、或は國家觀念の變更による國家消滅か、學者皆見解を異にし歸する所が無い。

(二) 國家と民族

國家は民族、言語を主とするが民族には大小あり、國家を成すに足らざるものもあり、又分裂せんとするものもある。

微小民族(人口百萬以下) 二〇〇民族(國家を成し得ず)

小民族(人口百萬乃至千萬) 四〇民族(自治領、保護國程度)

中民族(人口千萬乃至五千萬) 一〇民族(中立的)

大民族(人口五千萬以上) 一〇民族(中心的)

内人口一億以上 四(支那、印度、英、露)

國家は古代人口少數でも成立したのであるが重工業の發達、軍備の擴大其他交通機關の機械化、教育、産業の規模擴大等の現代に於ては小民族は國家を成し得ず、殊に軍備の膨脹により中民族は

僅に強大國の勢力均衡の場合にのみ獨立を保ち得る状態である。

人口五千萬以上の大民族は日本、支那、馬來、印度、英、露、獨、佛、西、伊の十ヶ國である。

この十民族は人口としては大民族であるが、印度と馬來は既に英蘭に征服せられ、佛、西二國亦戰敗國として殖民地は幾多の小國に分れて居る。

是により現在の國際世界に中心主動國は日本民族、ドイツ民族、英民族(英米)、ロシア民族の四民族、五大國に過ぎぬ。

(三) 世界國際の將來

世界國際の傾向は如何なるべきか

(1) 強國の武力統一説 強國の國力、武力に差異を生じ、一強國が世界を統一すると云ふ。而して最後の強國は日本なりともドイツなりとも云ひ、ロシアなりとも英、米なりとも云ふ。或は支那民族なりとも云ふ。

(2) 強國對立永續説 最強國は世界統一前に分裂して二國となり(東ローマ、西ローマの例、西葡の例、英米の例、獨逸の例) 世界は常に對立する。一時的征服、統一はあつても必ず分裂す

る。地球以外より攻撃を受けざる限り統一の必要が無い。眞理は對立にある。

(3) 國際政府、國際軍 世界各國の對立の反面に宗教家、哲學者、科學者、教育家、藝術家等の世界主義、國際主義、人類主義、科學主義が隆盛となり、國粹主義、國史主義、地方主義が衰へて軍備廢止と國際政府の樹立となり、國際結婚の奨勵、エスペラントの普及、國際軍の建設となるであらうと云ふ。而して國際政府や國際軍の幹部は國際主義者、混血兒を以て充當し、世界言語、文字、服裝の統一、度量衡、貨幣の統一が實現するならんと云ふ。世界哲學神社、世界文學神社や世界科學神社等が建設さるゝならんと云ふ。

(4) 國家觀念の變更 土地中心國家觀念が職業中心に移動して職業國家に變化すると見る。國內に於ても土地中心の行政區劃が職業中心に變化しつゝありと云ふ。大日本、兵庫縣、武庫郡、精道村と云ふは土地的地である。大日本、紡績縣、染色村とか鐵道縣、驛長村等となると云ふ。牛込區、小石川區等が運輸區、印刷區等となると云ふのである。

## 第三章 社會機構論

### 第一節 政治

政治は狹義には立法のみを云ひ、廣義には司法、行政を含む。支那にては古來更に考試(學術資格)監察(政府監視)の二部を加へて居る。然し監察は司法に近く、考試は行政の一部分とも見らる

#### (一) 立法

立法部は政治の根本である。是は國體により二種に分れる

(1) 獨裁參議制 古代の君主國の大部分及び獨裁專制國に於ては、君主又は獨裁者が自ら立法し或は其の指名により參與、參議を設け立法部を獨占するのである。現在の獨、佛、露、支の如きは形式上國會議員あるも事實上、獨裁參議政治である。

此の制度は君主又は獨裁者が特別の聖賢偉人なる場合は最上の政治であり又軍事、外交等の機密を要する場合には最適當であるが暴君、暗愚國王、橫暴獨裁者の場合には最惡の政治となる。

(2) 立憲議會制 古今共和國の大部分は是の制度を採用し、立憲君主國もこの制度である。人民投票により立法議員を選び、議會を設け、立法府とする。

此の制度は民意を基本とし、言論を自由にし、最も公明正大であると稱せらる。傑出偉人無き國に於ては最適當である。

此の制度の缺點は、多數投票を得る爲め大衆に媚び、其結果大衆主義、勞農主義に陥り偉人主義、天才主義が葬られ、又戰時に於ては機密の漏洩する恐れが多く、黨派に分れ統一を缺く恐れあり。

(3) 立法資格試験制度 獨裁指名は情實好惡に陥り易く、民選議員は大衆に媚び易い。學問に司法學、行政學ある如く、立法學の存在を認め、立法官資格を定め、立法を専門化せんとする制度である。

語學、哲學、歴史、社會學等を立法學試験科目とし、先づ立法資格を定め、立法資格者の互選或は民選、官選等により衆議院議員、府縣會議員等とせんとするものである(著者の創案)

現在世界各國の立法は、漸次純粹立憲と指名參議制との混合せるもの多く、而して不文律的に

(立法者の學力試験無くとも)資格も定まれる如くである。

(4) 職能代表制 立法府を職能代表にて充當せんとする案であるが、是は行政と立法とを混同する恐れがある。各種の職能代表は皆其職業の中心主要の位置にあり、職業行政には最適當であるが立法は技術で無い。技能で無い。立法は哲學であり、最高統一學である。部分専門で無いのである。

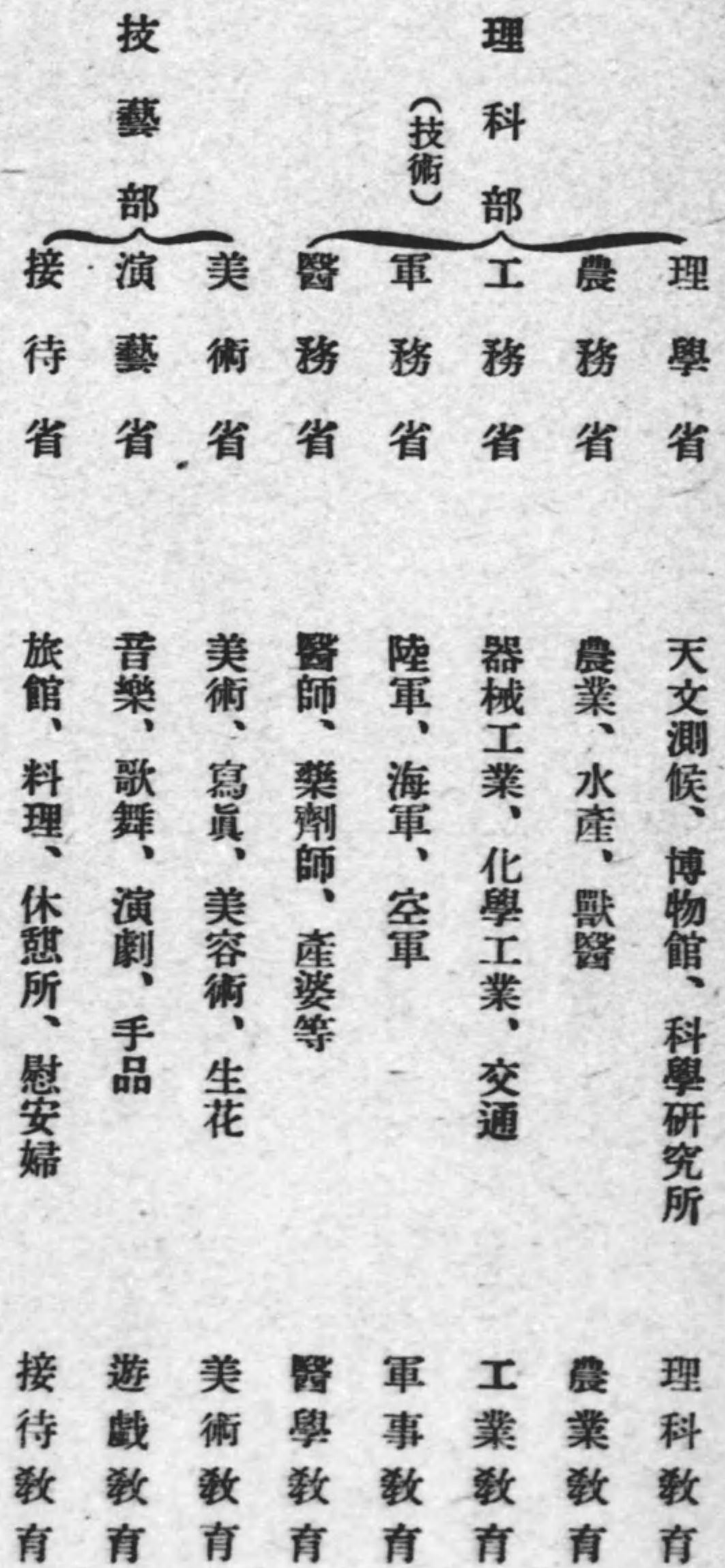
(二) 行政及び司法

行政は人事行政と事業行政とに分れる。古代中世は、行政は人事行政のみであつたが、現代は各種事業の國營あり、職業管理もあり、事業行政が相當の部分を占めるに至つた。

左に行政の科學的分類を示そう(著者の案)

省	所 轄(局 課)
法務省	司法、警察、行政(戶籍、財政、人事)法制教育
文科部	商業教育
商務省	商業、會社事務、會計
(事務)	
文學省	神社、宗教、新聞、雜誌、通譯
	文科教育





此の分類の主眼は職業の科學的系統に重きを置き、各職業を獨立せしめ、附屬的取扱ひを受けざる點にある。各人をして最高迄發展の途を開かんとするのである。

例へば

- 陸海軍の軍醫
- 醫務省に屬す (陸軍に配屬)
- 陸海軍の主計
- 商務省に屬す (陸軍に配屬)

- 中學圖畫教員
- 美術省に屬す (中學校に配屬)
- 船舶の船醫
- 醫務省に屬す (船舶配屬)
- 諸會社事務員
- 商務省に屬す (會社に配屬)
- 國民學校全科教員
- 文學省に屬す
- 中學校數學教員
- 理學省に屬す

現在の文部省の如き綜合的の省を設けないのである。

事業も専門的に獨立せしめ、船舶會社の醫務室は醫務省に統一する。中學校寄宿舎、孤兒院、鐵道ホテル、會社食堂は接待省の所屬とするのである。

## 第二節 經濟

### 一、經濟機構の種類

是には大體に於て三種ある

#### (1) 自由主義經濟

一般に民主主義國及び立憲君主國等に於ては個人を絶對とし、國家を法人とする思想が根底をなし、個人の私有財産及び個人の事業經營は絶對的の權利であり、國家の法律はこの個人の自由を擁護することを目的とし、決して干渉制限すべきで無く、國家は純粹政務以外何等事業等を經營すべきで無く。

事業は全部民營を原則とし、教育も、郵便も、鐵道も民營とし、甚だしきは陸海軍、裁判、警察等をも民營に移さんと論ずるものもある。志願兵主義、請願巡査の如き國防會社、會社自警團、會社委託裁判、會社收稅權の如き其の一端である。講事堂、學校、裁判所等も民間資本家の建築とし政府は借地料、借家料を拂ふ如きものである。

哲學者ニーチエは權力説 (Macht Theorie) を唱へ優者道德 (Herren Moral) を唱へ個人優勝劣敗の理を説き自由主義の泰斗である。

(ロ) 共產主義經濟

個人よりも人類全體を重んじ、個人の差異を少く見て、財産の私有及び個人所得に大制限を加へ大資本、大事業は國有とし以て貧富の差を除き強食弱肉を緩和する主義である。

私有、私營の程度は單獨個人にて經營し得る程度を限度とするもので、五十人以上の従業員を要する如き事業は私營を禁ずるのである。

現在ロシアはこの制度を行ふて居る。

(ハ) 統制主義經濟

私有財産、遺産相続、家族制度を認むるが國家絶對主義を原則として國力、國富の増進を目的とし、國內の産業、商業に一大統制を加へ國內相互の競争を絶ち、外國との經濟戰に打勝たんとするものである。従つて事業經營の國家管理、干渉、指導を行ふ。

現在國家主義の最も濃厚なるドイツ、イタリーはこの經濟主義を採用し、吾が日本も自由經濟より近年統制經濟に入つた。

二、資本の本質

東洋諸國は古代から私有財産を原則とし産業の國有、公有等は少く、封建時代の諸侯の權利も領地の私有にあらず、單に徵稅權であつて、農民には地主と小作人があつた。十分の五は小作者の所有、十分の四は地主、十分の一が租稅であつた。租稅如何に苛斂誅求でも地主の收入を皆無とする

こと無かつた。

然るに西洋諸國に於てはギリシヤ、ローマ時代から早くも私有財産の制限論、貧者黨、富者黨の對立、財産の國有論等があつた。フランス革命にて貴族僧侶の私有地多くは沒收せられ、前歐洲戰後ロシヤの革命は私有財産の大なるもの悉く沒收され、國有主義となり、世界の注目を引いた。其後ドイツの統制經濟は世界の經濟界の大勢となり、殊に今回歐洲大戰に於ては世界の各國は皆統制經濟の色彩を帯びて來た。

而して是等の經濟機構の根本思想は資本の本質の解釋にある。資本の種類は左の如き性質を有して居る。

- 天有的性質の財産
  - 空氣、水、日光
- 國有的性質の財産
  - 官衙、兵營、軍艦
- 公有的性質の財産
  - 道路、神社、銅像、教會、學校
- 個人私有的性質の財産
  - 住宅、衣服、家財、墓碑
- 私有的性質濃厚のもの
  - 小資本、輕工業、家庭工業、自作地

私有國有兩性質を有するもの



而して大事業の私有論と國有論とは家族制度、相續制度の承認と否定とに關係し、私有の性質を加味せんとする主義は大事業の會社株式制度を穩健と見る。大事業と小事業との區別困難にて大事業は家庭工業、手工藝の資本の集積であり、小事業の私有可能は進んで大事業の會社制、株式制に移るのである。

國家的統制と世界的統制とは程度の差である。國家の極大は世界であり、國家頗る強大とならば國家主義は意味を失ひ、國家微少なる時は世界主義に感化さる。國家が中等度に強き時、國家主義は最も隆盛である。亦天文、醫學、地震學等の研究事業は國家的よりも世界的性質を帯び言語、度量衡の改良、宗教、哲學、美術等の事業は國家的範圍に限定され難きものである。

自由主義の特長は偉人主義、天才主義の手腕を揮ふに宜しく、其缺點は貧富懸隔の大なることで

ある。

共產主義の特長は人類主義、平和主義、平等主義であるが、其缺點は創業、企業が國家的、合議的、多數決的となり私人、天才の覆はるゝ恐れがある。

統制經濟は私有を認め、遺産を認め、國家は是を統制管理するのみであるから、自由主義と共產主義との中庸の如く思はる。然し現狀統制を強化せば社會の固定となり、根本再検討の聲も出づるのである。計劃統制は現狀統制に科學的理想を加味せるもの政治の學術化である。

### 第三節 職業

事業又は職業は社會運營の基礎である。職業は能く是を分類統制せなければ能率に影響する。

#### (一) 職業の分類

職業の分類には經營的分類と本質的分類とがある。従來は經營的分類が採用されて居たが昭和十五年の國民總動員の國勢調査には本質的分類が採用されたのである。

#### (イ) 經營的分類

官營的職業	官 吏 (種類を問はず)
軍務的職業	軍 人 (同)
公法人的職業	公 吏 (同)
會社の職業	會社員 (同)
獨立的職業	(種類により區別する)

原 産 業	農業、漁業、林業
工 業	器械工業、製造業、手工業
商 業	販賣業、銀行、保險、紹介、交通
客來集目的業	興 行 業
高等自由業	醫師、僧侶、辯護士等
商店員家事勤務	店員、下女等

この分類は經營の形式を主とするもので、獨立業のみが比較的に分類されて居るに過ぎぬ。又開業醫兼醫學校教授の如き分類困難なるものが生ずる。

音樂學校教授は官吏とし、自宅開業音楽家は高等自由業であり、サーカスは興行業となるのである。

(口) 本質的分類

科學的に次の如く分類する

大別		内容	
文科部	文科業	文科教育	神官、僧侶、文科記者
	法科業	法科教育	司法行政、辯護士等
(事務)	商科業	商科教育	商業、會計、事務
	理科業	理科教育	天文、博物館
理科部	工科業	工業教育	工業、交通技術、飛行士
	農科業	農業教育	農業、獸醫、水産
(技術)	醫科業	醫學教育	醫師、藥劑師
	軍事業	陸軍兵科	海軍兵科、空軍兵科

この分類は科學的であるが區別困難なるものは豫め細目によりて是を定むる外無いのである。例へば無線電信員は理科業であり、博物館の動物養育係は理科業で、入場料係は商科業である。

(二) 職業の統制

職業の發展進歩は其専門學術の研究進歩によるものであるから、従業者をして専門的に熟練せしむることが必要である。この點に於て全面的職業を廢して皆専門を決定せしむることは進歩の基である。

(イ) 全科的職業を單科的職業に変更すること

例へば國民學校の教員は全科受持であるが文科、理科、技藝科の内其一科を選ばしめ、全科擔任にても文科、理科等専門的に分類、他日中等教員資格受験の獎勵とする。

(ロ) 多面的實業會社を一社一業とすること

例へば船舶會社の醫務室は衛生省經營に移管し、鐵道會社の旅館經營は接待省又は旅館會社の所屬とすること。

(ハ) 職員の事務系統、技術系統、技藝系統を區別すること

料理人、運搬夫、給士は技術に加へず、接待技藝員又は家事技藝員とすること(事務とは異なり技術とも異なる)

(ニ) 同種の職業數多あるときは更に専門分類せしむること

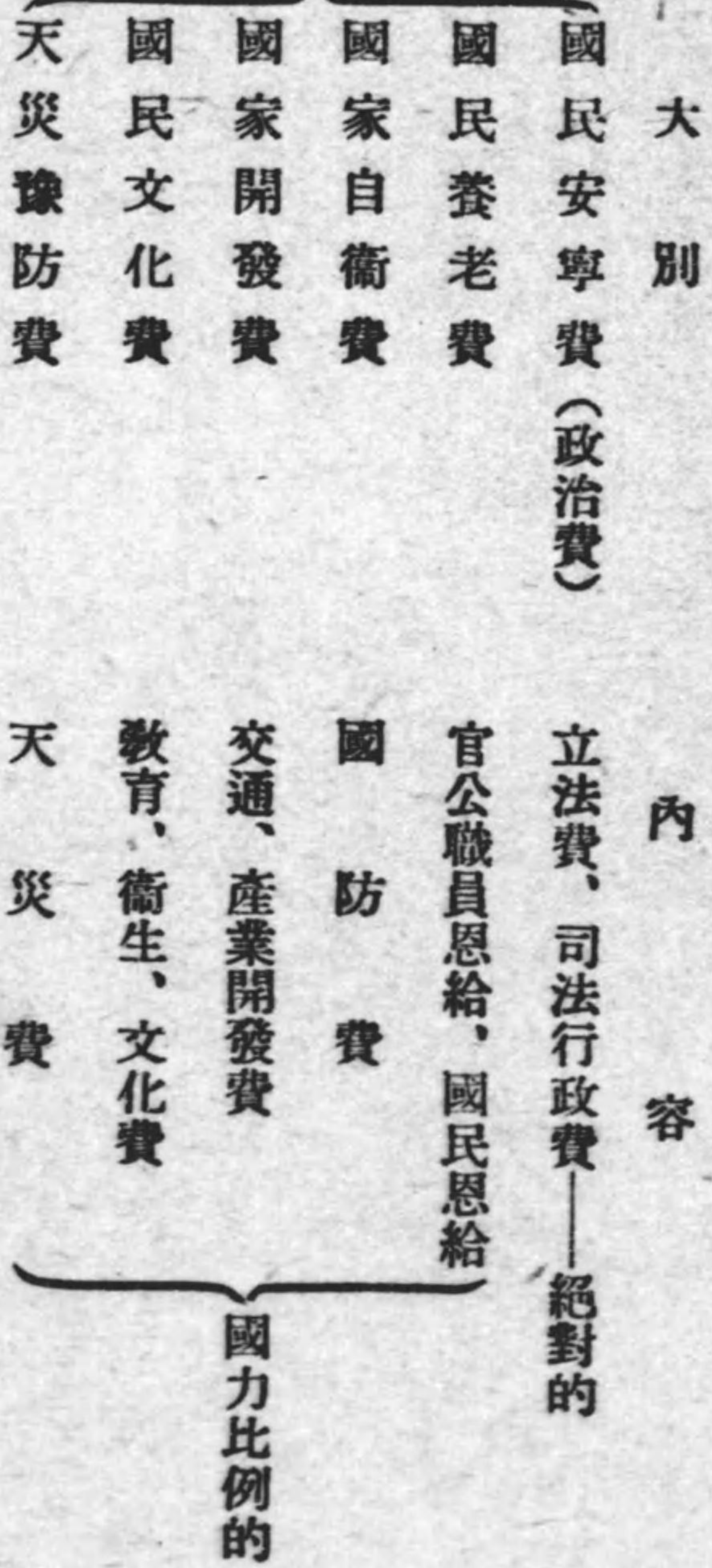
例へば書店が都會にて數多あれば文科書店、理科書店、全科書店等に分類することは向上を計ることとなる。

### 第四節 財政

國家社會の財政は支出を主として收入を講ずる。個人の財政は收入により支出を定むるのである。是れ國家の財政と個人の財政と異なる點である。

#### (一) 支出體系

國家財政の支出を科學的に分類すれば次の如くなる。



國民安寧費は所謂政治費であつて最も根本的の經費である。國の貧富強弱によらぬ。國防費、國土開發費、國民文化費は國力に應じて支出するものであるから一定せぬ。平和時に於ては

産業開發費、文化向上費(主)目的  
外敵防禦費、(從)豫防

であるが、非常時に於ては反對となる。平和時（健康時）の兵力は赤血球と白血球の比が最も科學的である。人口（或は戸數）千につき一人乃至二人（一戸乃至二戸）の兵力を標準とする。人口一億につき十萬乃至二十萬の常備兵である。非常時は數倍乃至數十倍に達する。

(二) 收入體系

國家の收入は租税と稱する。租税の種類は現在種々あるが科學的に分類すれば支出體系と對照的となる。

大別	内	容	原則
國民安寧稅	人頭稅（國民稅、市町村民稅）	平等稅	
國民養老稅	養老稅、恩給基金		
國家防衛稅	國防稅	等差稅	
國家開發稅	財產稅、所得稅		
國民文化向上稅	教育稅、衛生稅、觀覽稅	間接稅	
備荒稅	災害特別稅		

國民安寧稅は人格的であるから平等を原則とするのであるが、國防的に使用する場合は、國防は生命、財産の保護であり、財産所得により等差あるべきである。

現在の市町村民稅等が單に純粹政治費（戸籍、司法、行政）のみであれば人頭式平等を原則とするも、其内には道路費、土木費、教育費等を含むを以て等差稅となる。

教育稅、衛生稅は教育を受くるもの診療を受くるものが大部分負擔し、基本設備等は政府及び公共團體にて行ふべきものであらう。

第五節 教化（教育、宗教）

教化は教育と宗教とに分つ

(一) 教育

一國文化の向上は教育にあるから各國は是に相當の國力を傾注する。兒童の發育期は即ち教育期である。教育期は次の如く分れる。



中等教育期に於ては既に生徒の心中に學科に好惡の別生じ専門、非専門の色彩を帯びて來る。各國の國民教育の年限は漸次延長し現在の文化國は義務教育の年限が八年乃至十年である。

(二) 宗教

宗教は人類の哲學的宇宙觀である。富者貧者の別無く、人生最高問題たる死生觀に對する解釋で古今東西の聖賢の教理により自己を清の自己を慰めるのである。宗教は國家を超越し、其神佛天帝は宇宙の創造者であつて、帝王と雖是に及ばぬのである。

宗教は古代中世に於て國教となつたものもあるが、近世は信仰の自由を認め國教は存在せぬ。近世科學思想が發達し、哲學的宇宙觀にも種々の學說生じ、宗教思想は甚だしく減退した。然し死生觀、宇宙觀は人生の最高最大問題であるから知識階級は科學的、哲學的宇宙觀を望んで居る。

宗教類似の人生觀も種類が多い。

(三) 神社及銅像

人死して肉體は土に還り靈魂は實在界（靈界）に歸り存在すると見る。神佛以外に一國の開祖・自家の祖先、古今の偉人聖賢を祀る、是を靈場と云ふ。神社は吾が日本民族の靈場である。

墓地 墓標 主として自家祖先の靈場

神社 日本皇室及び國民の祖先を祭る靈場（民族的）

陵 墓 古今帝王の墓地

記念碑銅像 古今英雄、偉人の崇拜の爲めに作る（文化的）

國家國粹主義と世界主義との消長により愛國的、民族的偉人の崇拜と産業、學術等の偉人が崇拜せらるゝ場合とある。

註 日本神社は日本の國祖崇拜の靈場であるが、神道は日本古代の宇宙觀、死生觀、人生觀の宗教である。

神社の統制は皇祖神社と護國神社とを國民共通の神社とし官幣、國幣、府縣社、郷社等に分ち公平に建設すべきである。



又別に文化神社を設立し、農業神社、工業神社、醫學神社、理學神社、文學神社、美術神社等に分つても可ならん。聖徳太子を建築の神と見るが如きである。

孔子、釋迦、基督の如き宗教開祖は哲學神社の祭神たるよりも教會、寺院の内に安置して信者の參詣に便ならしむべきであらう。

## 第四章 人事論

事業機構と人事機構とは社會の二大要素であるが一般の社會學は事業を論じ人事を述べず。蓋し人事學は社會の注目を引き責任重大なるからであらう。予は倫理學專攻の見地より極めて公平に科學的に論及して、社會學の重要部門として加へんとするのである。

### 第一節 人格

#### (一) 個人の眞價と公價

人類が社會協同生活を營むに當り、人類には個性發達し、他の動物間に見る能はざる優劣あり以て幸福を受くる點に於て等差を生ずるのである。動物に於ては體力の差以外に殆ど優劣を決すべきもの無く、體力の如きも同種類、同型の動物に於ては殆んど其間に差異あるを認め難いのである。個人が社會より受くる幸福を公價と云ひ、其原因をなす條件を眞價と命名すると次の如くなる

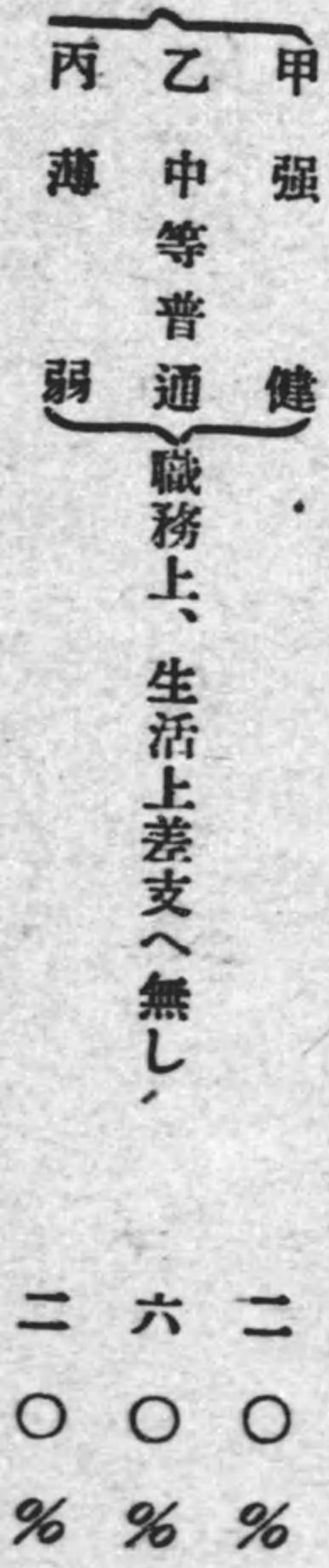
眞 價——體格、人格、學術技能、職業、運勢  
 公 價——地位、財産、身分、名譽

是等に對し科學的研究をなさざれば、人事界は暗黒化し、社會の秩序は理解なき秩序となり、人皆眞價を重んぜず、公價を疑ふこと生ずるのである。  
 眞價の各項目の特性は次の如きものである

體格、人格、運勢——平等性、天性的、非人爲的  
 教育、職業——等差的、人爲的、數字的

(二) 體 格

體格及び壽命は多少人爲的にも改良さるゝも現在の醫學的見地より見るに、先づ先天的、天性的に近く、努力による改良、改善は僅少なりと考へらる。體格は次の如く分つ



(丁) 不具廢疾 獨立困難 一〇%以内

現在の醫學は衛生訓練により薄弱を中等普通に進めんとする。

(三) 人 格

人格は人の眞價中第一に位するもので個人の個性であるが、其の半分は先天的であるが半分は教育修養によりて向上する。恰も犬の從順なるは先天的であるが教育訓練によりて大に養成出来る如きものである。

人格は個人の人生觀、宇宙觀より來る故、社會道德性と宇宙道德性とに分れる即ち倫理的と宗教的とである。

一般に少年、青年は父母師長に養育、教育せられ社會的人格の陶冶を受け中年、老年に及んでは宇宙を大觀し、宗教的感化を受くるものである。宇宙の神佛の存在と自己の死後、生命、人事運勢の不可思議に想到するとき宗教心が生ずるのである。

現代科學的時代となつて宗教心一般に衰へたが婦人、老人には尙宗教心あり學者の間にも宇宙の解釋は結局哲學的、宗教的である。科學にては吾人の心底に不安ありと云ふ。

(イ) 社會道德性 (ジンメル氏分類)

- 甲 正社會性                      正義 (全體) 秩序 (縱) 恭謙 (橫)                      (Social)
- 乙 不社會性                      朴直、疎野、猜疑、孤立                      (Non Social)
- 丙 偽社會性                      虛偽、依頼性、阿諛、策略                      (Pseud Social)
- 反社會性                      反抗性、自尊過度                      (Anti Social)
- 丁 不正、暴舉                      法律違反

(ロ) 宇宙道德性 (宗教性)

- 甲 信仰性                      信仰、敬虔、靈性、安心
- 乙 不靈性                      不安、卑俗、不信

而して是等の甲乙丙等の等級は絶對的で無く、幾多の階段中間型ありて判斷に苦しむ、自己の徳性上の缺點を氣付かぬ人もあり、又意識的に不徳を犯す人もある。眞に神佛を信する人は表裏の別無く有徳であるべきである。故に古來個人の傍らに常に神の存在照覽するを信する人即ち信仰家にして社會道德の優れたる人を聖人と云ひ君子と云ふのである。

聖人君子は事に表裏無く敬虔にして誠意がある。神の存在照覽を認めずとも社會道德は社會的動物たる人類に絶對性あることを認め、其人の習性となつて居るのである。古來人格の種類は

- 聖人                      徳性模範たる人 (神性多量)
  - 君子                      徳性高き人 (神性あり)
  - 凡人                      徳性中等度 (人間性)
  - 俗人小人                      徳性少量 (動物性)
- と見るべきである。

(ハ) 職業的人格

人は社會生活に當り職業と經濟は人類の發展であり、個人の發展であるから職業經濟的の人格が發生するのである。職業的、經濟的人格は直ちに其結果が自己の發展、上長の信用に影響するから是を無視し難いのである。

- 甲 建設的                      勤勉、儉約、利用、用意周到、努力、整頓、創始
- 乙 普通的                      中庸、維持的、保守的

丙 消耗 的

怠慢、虚榮、奢侈、油斷、亂用、不整頓

是等の人格にも職業的に優秀にて経済的に疎雑の人もあり、経済的に濃厚で職務的に怠慢の人もある。

(四) 運 勢

人類個人の眞價と公價と一致せざる原因の一に運勢がある。天災、病氣、戦争の突發、時勢の急變等である。然し天災、戦争、時勢變動は國家や地方全體に來り一人のみを襲はず。急病突發、不具廢疾の急襲は個人的に來るが是は平素の貯蓄により防ぎ、不具廢疾は人口千人に一人程度である。運勢を過大視すべきでない。

好運(少)、中運(多)、惡運(少)。

第二節 教 育

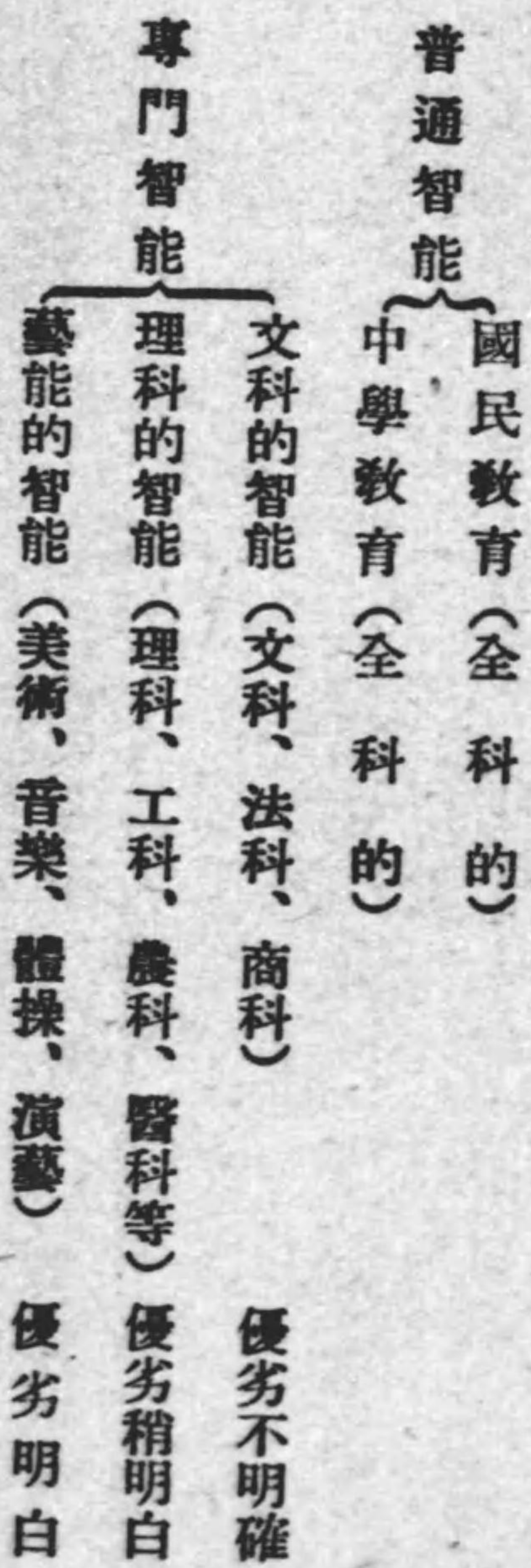
人類が他の動物を征服し地球の王となり今日の文化を建設したる主たる原因は、體力や徳性よりも實に人類の智能であり、學力である。狹義に云へば科學の力である。

人類相互間の優劣も體力や徳性よりも學力技能を以て定めることが、古今東西の一般となつて居る。體力や徳性には明確なる階段が附し難いが學力技能には優劣が比較的明亮であるからである。

武術、角力、音樂、圍碁、繪畫等は優劣が明白であるから地位と技能とが一致する。理學、工學、農學、醫學等の技術方面も大體に於て學力技能の優劣が明かであるが文科、法科、商科等の方面は學力の優劣明白で無く、且つ人格的職務であるから地位決定には人格も加はる。

(一) 教育技能の種類

技能の種類及び性質は次の如く見らる



優劣明白ならざるものは年功、經驗等により優劣を定める。年功、經驗は熟練を意味し、熟練は

職務の能率に影響するに由る

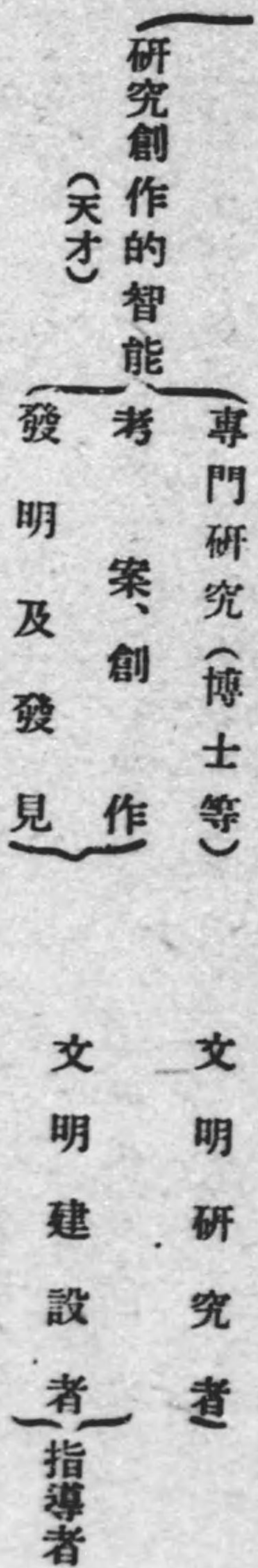
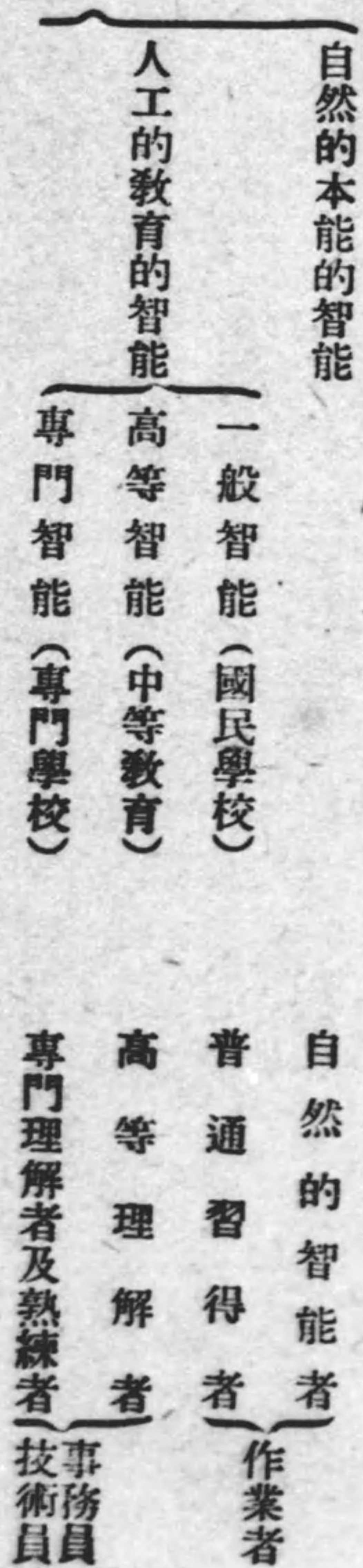
(二) 教育技能の階級程度

人類各個人の智能の等級を附することは頗る困難で且つ慎重を要する問題であるが、社會人事上是を確定することも必要である。

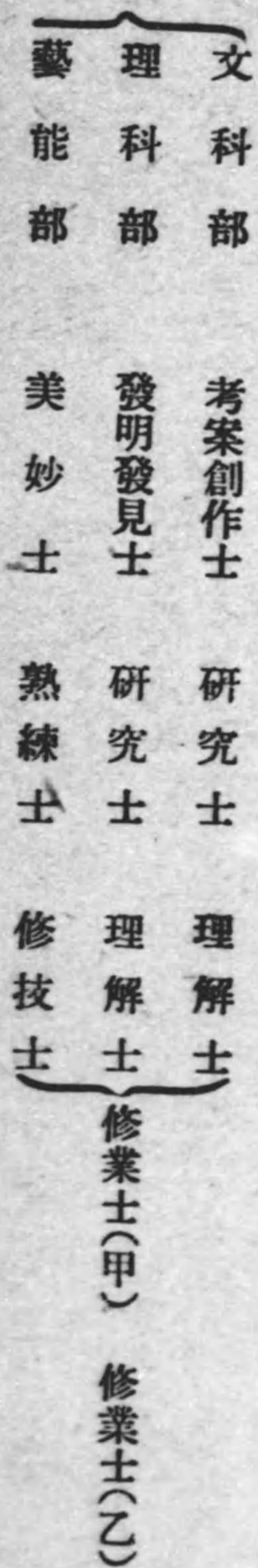
人類は過去數千年間、上層部のみ教育を受け一般民衆は全く無教育に置かれ勞務に従ふのみであつた。然るに近世各國に義務教育制度が布かれ、世界各國共に無學文盲者は非常に少くなつた。

然し純然たる無學、無教育の者も自然的智能を有して居る。是は人類智能の大部分である。動物の智能は全部自然智能である。

人類及國民智能等級



一般に是を分類すると右の如くなるが、其の間もあり地位と一致せしめることは困難である。現在の博士は研究士と稱すべきもので、部分研究と部分學習と區別し難き場合が多い。研究にも原理統一研究と部分技藝研究とあり發明、發見、考案、著述にも全體主義と部分主義とある (引力の發見、進化論の發明、周期律の發明や社會學の體系確立、文學の體系の如きは原理的、全體的である。螢光研究、松茸人工栽培、安土城址研究、流球數學史等は部分研究である) 文科部、理科部に對立して藝能の階級は次の如く定むるの外方法が無い。是は發明、發見、考案で無く美妙が目標である。



(學校比較) 天才 大學院 專門學校 中學校 國民學校  
 (三) 年功經驗

年功經驗は學習せる智能を反復行使するにより漸次熟達、熟練し能率の増進を來す故に地位待遇の昇進が認めらる。

然れども單に年功經驗のみの智能増進は到底高級智能に達し難きを以て更に學習、獨學等により高級智能を習得せざれば高級智能者と同一視さるゝことは六かしい。世上往々學歷低くして智能高級なる人があるのは一見不思議に考へらるゝも、皆苦心獨學して單に年功のみならず智能の向上せる人である。

(四) 智能階級の絶對標準

小學と云ひ、中學と云ひ、大學と云ふ智能の階級標準は何に基くか、是は單に年限によらず讀書の冊數にはよらぬのである。

造物者(神)が人類に智能を與へ進化せしむるに當り、文科文明と理科文明の基本試金石として語學と數學とを與へた。是により各個人は試験せられて三階級に分れる。

普通學力	國語	算術	及び専門科目
中等學力	第一外國語	代數幾何三角	及び専門科目
高等學力	第二外國語	高等數學	及び専門科目

人類の智識は實用より學理的に進み更に批評的に進む

實用的 (Practical)	國語	算術
學理的文法的 (Grammatical)	外國語	代數幾何
批判的 (Critical)	言語學 (第二語學)	高等數學

現在吾國の高等學校に於ては文科、理科共に第二語學及び高等數學を課するに至つた。實用よりも頭腦の試金石である。

(五) 智能向上の絶對限度

人類個人の頭腦は教育學習により全部學士、博士、發明家等に達し得るか否か、教育の可能性の限度あるか否か検討の必要がある。著者は次の如く考案した。教育普及の最大限度の標準である。

國民教育(八ヶ年)の可能性 一〇〇%

中等教育の可能性 五〇%

中等教育を義務教育とするも第一語學、代數、幾何等の學習理解に堪へざるもの二分の一ありと信ず。一旦學んでも直ちに忘る

大學教育 一〇%

第二語學、高等數學等の試金石を征服し得ざるによる

研究、發明、發見、考案、著述 一%以内

自己批判により到底學術界の貢獻者たる能はずと信ずる者多きに由る

現代の教育施設は此の標準の數分の一以内である。

### 第三節 身分

人格、學識、技能、職業等は個人の眞價であり地位、財産、名譽は個人の公價である。眞價は原因で公價は結果である。

地位、財産には世襲的のものと一代的のものとなる

### (一) 世襲的地位財産

世界各國共に君主國に於ては君主の地位は世襲を原則とする。國王の子孫及び國家功勞者には爵を與へ華族に列し、王族及華族は長子相續であり、世襲である。

世界各國共、家族制度を認め、私有財産を認め、死後遺産相續が許されて居る。但し遺産には相続税を課し或は遺産相續の限度を一定せる國もある。

一般個人に公共的地位の世襲は無いが、民業の世襲經營は許されてあるから、獨立業の經營者たる重役等の地位の世襲は存在する。

#### 世襲制度の根據

人類は最も遺産主義の動物であつた。祖先の作りたる道路、鐵道、住宅等を相續して幸福を受けて居る。他の動物には先祖の遺産無し。

家族制度を少しも疑はざりし古代に於ては子孫は父母の延長として遺産相續を當然として各國共承認した。

一國の開祖又は最高偉人たる國王には國民の尊崇集中し、他に匹敵するもの無き限り王位の世襲

は當然であつた。

帝王も國內の最賢者に位を禪る如き事は理想に似て、實際上最賢者は常に數名あり却て國內紛擾の恐れあり、直系子孫に譲る制度が生じた。

世襲的地位、財産を相続する人は哲學的又は宗教的、超科學的に何等かの原因があるであらう。佛教や基督教等に於ては世襲的貴人富者は前世に於て善行を積み、前世に於て充分酬みられずして現世に來り現世に於て酬みられるものと解釋した。

然れども歐米各國に於て世襲的地位財産は漸次制限的傾向にあり、又科學的根據を求めて益々世襲主義を強化せんとする學説もある。

(三) 一代的地位財産

世襲的で無い地位財産は各個人が努力により一代中に獲得せるものである。

(1) 財 産

一代的に作れる財産の成立原因は

〔獨立業務開始により得たる利益蓄積(着實業及冒險業)〕

〔官公衙會社等に奉職し蓄積せるもの(着實奉職節約貯蓄)〕  
暴險投資、僥倖當選による利益蓄積

人類の九十九%は着實主義安全第一主義を奉じ1%が英雄的、冒險的思想を有するのであるから財産の大集散は英雄的投資家のみ行はれて居るのである。

自由經濟主義國に於ては個人企業家多く財産の集散甚だしく統制經濟、國有經濟の人々に於ては個人財産は固定し集散少いのである。

個人私有財産に全く制限を設けざる人と、一定限度以上の私有を禁ずる國とある。又私有財産に制限を附せざるも累進所得税により其の收の大部分を徴收する國もある。

(2) 地 位

個人の社會的地位には種々ある今是を官民對照して列べて見よう

國會議長	國會議員	府縣會議員	市町村會議員
親任官	勅任官	奏任官	判任官
重役(大)	重役(中)	重役(小)	雇 傭



會社員	同	同	同
獨立實業家	同	同	同
技術藝術家	同	同	同

是等の官民の間には確定せる横の統一的均衡標準は無い。官公職員と名譽職との間には待遇規定がある。

眞に是等の間に權衡を謀り統一待遇規定を作成するには資本の大小、所得、學歷、年功等を參酌せねばならぬ。

地位の特性は常にピラミッド式なることである。同等の眞價を有する人材多くとも地位の數は一定である。適任者一名も無くとも一定數の地位は必ず必要である。

(三) 奉職者の待遇

近世大事業勃興し奉職者多數となり小資本の實業漸次合同の傾向あり中等教育、高等教育卒業生は殆んど全部奉職主義となりつゝある現代に於ては、奉職者の待遇問題は社會學の一項目とならざるを得ない有様となつた。

奉職場所

官 衙(官吏)、陸海軍(軍人)、公 署(公吏)  
會 社(大中小)、個人商店、病院、學校

待遇項目

本俸、特別手當、賞與、恩給退職金  
旅費日當、休暇制度

昇進法

試驗、拔擢、年功、資格

採用法

試驗、推薦、自由、資格

是等の條件か同一種類の職務に於て皆異なる現狀は成べく統一の必要がある。官吏と縣吏員と市町村吏員と差異多く、會社に於ては各社異なる有様である。成るべく同一種類の職業は官公私其待遇規定を統一すべきである。

自由主義經濟に於ては利益本位とすべきも統制主義に於ては賞與等の差異も多かるべからざるものである。

統制主義に於ては本俸は各種職業に通じて統一し、手當等は危險手當、海上手當、海外手當、航海手當等を支給すべきである。

職務の輕重難易は論ずべきで無い。行政と司法と、教育と宗教と、文官と武官と、主計と軍醫と、文科と理科と妄りに輕重を定むるはよくない。現在の我國俸給令に司法官、教育者、神官は差別されており。文官、武官又俸給異なるは漸次改正さるべきであらう。

會社、商店に於ても百萬圓以上、千萬圓以上の大會社、商店は聯合して會計給與規定を作成すべきであらう。

各職業別に獨立性を與へ會社病院、工場病院、市町村病院、組合病院等成るべく府縣單位に合併すべきであらう。

(四) 待遇の原則

待遇は元來地位に應じ、地位は能力に應じ、待遇と能力との間に均衡があつた。然るに近年優秀能力者頗る多く、地位頗る少く、地位と能力との均衡が破れ、中等教員、有資格者にて小學校教員たるもの多く、高等文官合格者にて判任官たるもの多く、是に反し需要多き部門は資格低くして地位高き人もある。飛行士、航海士、船舶機關士、無線電信技術人の如きは供給少く需要多く三十歳以下にて相當の待遇を得蓄財多き有様である。

茲に於て地位本位の待遇を改めて能力本位の待遇に変更するの學說も生じ易いのである

能力本位とは能力資格等級を先づ定め、是に應じたる待遇を決定し、地位の如何に係らず待遇を與へ地位に對しては地位手當を支給する制度である。然し文科部(文科、法科、商科)は學力等級が正確に決定し難く能力本位にせば弊害も生ぜん。理學技術部、美術藝術方面は能力本位最も行ひ易いのである。

(五) 天才と熟練

現在の官公職員、會社員、陸海軍等に於て一定度迄は學力資格本位にて位置を進め其以上(大學又は博士以上)は職務、年功、熟練を主として發明、發見、著述家等の天才を重要視せず徒らに天才をして不遇に終らしむる傾向がある。一部の學者は是が改正を唱へ、官公職員、會社員の最高資格として天才を採用すること科學的であると云ふ。

例へば

親任官	勅任官	奏任官	判任官
現在年功學士	熟練學士	學士	得業士

改正論  
發明發見者  
考案著述家

博士研究家

學士

得業士

現在博士、發明家等も重要せらるゝも樞要地位は年功家、熟練家が大部分を占めて居る。改正論者は勅任、親任等の上層地位を天才に與へんとするのである。

年功、經驗、熟練は萬人共通であるから是を最高のに尊重し、世襲家族主義を安定せんとするものなりと見る學者もある。天才は元より崇高なるも智に偏する恐れがある。

#### 第四節 資格稱號

人類又は國民の人格智能は先天的或は修養努力的に等差あり、是によりて職業に資格生じ、社會的に地位階級生じ、遂に共通的身分となる。今是を古今東西の各稱號によりて其等差を定め人生社會生活の標準とすること社會學の一任務である。稱號資格の種類は大體左の如くである。

人格尊稱

學力技藝等差稱號

職業資格名稱

職務階級地位名稱

一般身分稱號敬稱

#### (一) 人格尊稱

個人の個性の代表的のものに對し定まれる尊稱は次の如くである。尊稱に對し卑稱も存在する。

種類	尊稱	卑稱
徳性	聖人(一代的)君子	俗人、小人
徳行	忠臣、孝子、節婦	奸人、毒婦
容姿	美人、佳人、麗人	媿人
智性	賢人、學者	白痴、愚蒙
事業	偉人、精力家、努力家	凡人
軍事	英雄、志士、義民	

而して是等の尊稱を受くる比率は大小程度により異なるが、小は町村的、大は府縣的、全國的の

名稱である。

(二) 學識技能稱號

學力方面は東洋、西洋ともに學校卒業或は國家試驗等により一定稱號あり、是等の稱號は同時に職務任官の資格となつて居る國が多い。

學力の稱號は通例、得業士即ち高等專門學校卒業以上のみに定められて居るが、中等教育修了は義務教育以上の學力修業であるから是亦官公職會社等に於て任用、採用資格となつて居る。是にも稱號を定むること、學力統制上必要であらう。

美術、音樂、演藝等の技藝には其科目により各々別々に稱號あり、同時に地位名稱、資格名稱である。

予は次の如く分類統制の必要ありと思ふ。

等 級	現在稱號	予の考案
一級 國民學校修了程度	ナ シ	小學士(普通修業者)
二級 中等學校修了程度	ナ シ	中學士(普通理解者)

三級 高等專門及び大學卒業程度 學士得業士 專門士(専門理解者)

四級 大學院研究程度 博士 研究士(博士)

五級 發明發見著述程度 ナ シ 創發士(名譽博士)

是が決定方法は學歴のみによらず毎年府縣國家に於て願書により試験及び詮衡等にて定むるのが公平と思はる。

是等の能力調査は國勢調査の時行ひ、國民總動員の際、勅任、奏任、判任、雇傭等の相當職として認定することも一策である。

美術、音樂、演劇等の從來の名稱を次の如く統制することも出来る。

種類	從來の名稱	相互統制共通名稱
美術界	法眼(大中小)	(發明家程度) (研究士) (學士得業士)
音樂界	檢校(大中小)	美妙士 熟練士 専門士
演劇界		
角力界	横綱、大關、關脇、前頭	

武術界	師範、七段……初段、級	指南士	鍊達士	專門士
棋碁界	本因坊、十段……初段、級			
其他				

角力、武術、棋碁等競技的の技藝は指南、鍊達、專門士を更に三段、四段に分つことも必要であらう。

(三) 地位階級名稱

社會の職業には職名あり、階級には階級名がある。階級名は同時に資格名なることもある。階級名と身分名とは異なる。

階級名の簡疎なるもあり、精密なるもあり、軍人の階級名は統率の關係上最も精密である。

種類	階級名
教育	教授、教諭、訓導
僧侶	法主、僧正、僧

技術	技監、技師、技手
軍人	元帥、將官、佐官、尉官、下士官、兵卒

是等の名稱が精疎各々異なり、社會的地位の共通階級名として軍人階級名を採用するの外無い。軍部に於ても其の所屬範圍擴大と共に、軍醫、主計にも音樂等にも將官、佐官、尉官の名稱を用ゐて居る。

地位、階級は移動し易く、昇級あり、退職あり、學位稱號は不變に近い。階級名を學力稱號を用ゐて區別する時は地位と學力とが混同するからよくない。

例へば

美術中將、音樂大尉、接待伍長、宗教少佐等は階級名であるが、美妙士、音樂熟練士、武術專門士等は學藝稱號である。

(四) 身分

國家社會全般に通じて其個人への地位、財産、學識等を總括し世襲的或は一代的の身分が出来る。身分を顯はすものは勳位、族稱及び一般社會身分名稱である。勳位は主として官吏に限らるゝ

爲め一般的と云ひ難い。

元首	皇王族	華族	士族	平民	(族籍)
根幹	金枝	蓮枝	末葉	庶人	(系統)
		名門	名族	庶人	(同)
(支那古代)	天子	諸侯	鄉太夫	士	庶民 (社會一般)
(現代)		上流	中産	庶民	(同)
(名稱)		貴族	紳士	庶民	(同)

是等の比例は社會の十分の一、百分の一を紳士とし、千分の一、萬分の一、十萬分の一を貴族と見るべし、社會の九割を庶民と見るべきか。

一般に身分は世襲的であり、財産的である。大勢的に國紳、府縣紳、町村紳、部落紳、町内紳等に等差を定め得るが實力の移動が甚だしい。

### 第五章 結論(社會の進歩)

#### 第一節 平和と戦争(人類の進化)

##### 社會の進歩

社會の進歩は二種の方法によりて行はる

- (イ) 平和的變遷 (理)
- (ロ) 战争的變遷 (勢)

この二つは古今の歴史に於て交互に現はれて居る。今後の歴史に於ても又避け難き對立であらう。

#### (一) 平和

人類は肉食動物より進化せず、果食動物たる猿猴類より進化し、猿猴類は群棲動物であり、平和動物である。夜間視力無く、爪牙發達せぬ。

平和的進歩は言論的進歩であり、理論的進歩である。人類の最も希望する所である。而して其進歩は學術、産業、宗教、藝術等に及び文化の全部である。暴力、武力は極力取締りを受け好戰的思想言論は排斥せらるゝ。

(二) 戦 争

人類は肉食をも爲すを以て肉食動物にあらざるも武力的精神強く殊に温帯、寒帯の人類は牧畜、狩獵、漁業を業とし、肉食勇敢の精神がある。戦争に對する哲學者の解釋は二種ある。戦争全廢理想論と戦争積極必要論とである。

戦争の種類は、英雄の覇業的戦争を最も原始的とし、氏族戦争を其次とし、國家戦争、民族戦争、人種戦争を中間とし、將來の戦争は國內的、國際的共に宗教的、政治的主義戦争ならんと云はる。國內戦争は元より國際戦争も政治主義的團結フロックの戦争ならんと云ふ。關東と關西との戦争、亞西亞と歐羅巴との戦争の如きは國際結婚、職業關係等によりて徹底せず。眞の團結は主義思想であると云ふ。

眞理、理想は尙ぶべきも、眞理が二個以上ある時は學說の争の如く調和し難く、況んや生命現實

生活に關する問題に於ては屢々兩立を許さぬことあり、又多數決を理想とするも大勢を作る爲めに屢々少數派が内亂を起し、或は獨立を唱へ、分離分裂を唱へ、往々にして武力を用ゐることがある。従つて戦争を以て人類の自然性と見るのである。

第二節 政治の學術化（政治の進歩）

古今東西の歴史に於て社會の變遷は種々あるが、其變遷の中心は英雄、貴族等が主であつた。蓋し上古人智進まざる時は英雄、貴族の外、民衆の中心たるものが無かつたのである。

然るに近世國民教育進み民衆の智能向上し、政治の専制獨裁の不可能と大衆の應援なき政治の行はれ難きに至り立憲政治、民主政治の發達となつた。

獨裁政治も、民主政治も、共に政治を以て權力的、自由的、主觀的と見る點は同一である。然るに科學の發達は萬事科學的となり、政治の科學化、學問化が唱へられる至つた。

社會學は政治の科學化に伴ひ發達するものである。社會の變遷は科學的に見て、次の如く推定せらる。

文科文明時代（過去）眞

精神文化の建設（宗教、言語、文字、法制）

科學文明時代（現代）善

物質文化の充實（理化工業、醫學）

藝能文明時代（將來）美

美の發揮（美術、音樂、遊戲）

古代に於ては偉大なる宗教家、哲學者及び英雄、偉人が社會の先覺指導となり、現代に於ては偉大なる科學者、技術家が漸次中心勢力となりつゝある。もし物資充實し、生活豊富とならば、藝能家に對する尊敬は最高となり、文科、理科は基礎手段となり、藝能が人生の目的視せらるゝに至らん。

然れども眞善美は遂に分離すべからず、互に調和して有終の精華を放つものであらう。人類主義と國家主義と個人主義とは融和すべきものである。文科文明は器械を用ひず従つて集合團結あるも分業的團結にあらず、科學文明は器械文明なるを以て分業團結の發達となり社會は統制的必要を生じ物資統制は人事統制に移行するものである。

簡明統制社會學

終

昭和十七年九月脱稿  
昭和十八年八月一日印刷  
昭和十八年八月五日發行

定價 金壹圓  
特別行爲税 金八錢  
合計賣價 金壹圓八錢

滋賀縣犬上郡多賀町大字一圓

著者 野村 佐一郎

發行者 神戸市神戸區元町通一丁目二十四番屋敷 川 瀬 進

(日本出版會會員番號一〇六五〇六)

印刷者 神戸市葦合區吾妻通三丁目十七 佐藤 爲吉

印刷所 神戸市葦合區吾妻通三丁目十七 中外印刷株式會社

發行所 神戸市神戸區元町一丁目二十四番屋敷 合發會社 川瀬 日進 堂

東京市神田區淡路町二丁目九番地

配給元 日本出版配給株式會社



日本出版會承認  
Z 430724号



平 294

野村佐一郎著述目錄

書名	定價	發行所
簡明表解 內科診斷治療學	三・八〇	南山堂 (東京市本郷區龍岡町三一)
內科學概論	一・四〇	日本醫學研究會 (東京市世田谷區成城町九六、馬場和光方)
初等印度語研究	一・八〇	崇文堂 (東京市神田區神保町一丁目)
世界各國史	四・五〇	同
世界文學概要	一・四〇	川瀨書店 (神戸市神戶區元町通一丁目二四)
簡明世界哲學史	一・八〇	川瀨書店
簡明言語學	一・五〇	川瀨書店
簡明統制社會學	稅込一・〇八	同
簡明解剖學		
簡明分類單語集		
文科參考 高等數學大意		
簡明西洋醫學史		
船醫の隨想		
簡明世界科學史		

